Engineer プラットフォーム

Ansibleチェックモードを実態に即した検証に

Ansibleのcommandモジュールが--checkでコマンドを省略しながら成功を返すため、ホストから得ていない値で判断していた6個の検査を修正し、プラットフォーム全体のチェックモードが実態を伝えるようにした。

9月 2026

ホストが返していない値で判断していた6つの検査

状況. 本番への試行実行は、変更の効果を安全に知る方法のはずだった。2026年9月、実際のホストについて誤った検証で失敗し、安全なサンドボックスを緩めるフラグを勧めた。ホストを読んだのでなく、返されていない値を読み、結論を出していた。

課題. 判断に使うすべての検査をチェックモードでも正直にし、できないものは黙るのでなく、その事実を知らせる必要があった。

行動. 文書化されながら忘れやすい性質が原因だった。commandはチェックモードで実行されず、空の結果でなく、出力が空の成功を登録する。条件式は未測定の値で、そのロジックの向くほうへ判断してしまう。登録済み検査をすべて調べると6件あり、監督プロセスへ尋ねず全設定を許すとしたもの、ファイアウォール停止中なのに作業なしとしたものなど、別々の誤報をしていた。それぞれを2形態のいずれかにした。未変更の既存状態を読む検査はチェックモードでも実行し、実行不能なら省略して何を検証しなかったか明示する。ログの沈黙は合格と同じに読まれるためだった。

結果. 試行は測るか、測らなかったと言うかになり、以前の第3の状態はなくなった。同時に開発指針へ、チェックモードは嘘をつかず、見えない検査はそれを知らせ、見えないことから判定を推定してはならないと記した。

この経験をお客様のプロジェクトに

「Ansibleチェックモードを実態に即した検証に」を、お客様の組織の似た課題を考える出発点にしてください。この実績を支えたサービスを、お客様のプロジェクトにも提供できます。 構成全体をファイルに記述し、特定の人の記憶だけに頼らず、まったく同じ環境を再現できるようにします。

サービスを見る お問い合わせ →

結果の背景を確かめる

この事例の状況、判断、結果をご覧ください。どの部分がお客様の制約の下でも生かせるか、どこに別の方法が必要かをご相談いただけます。 Ansibleチェックモードを実態に即した検証に — ホストが返していない値で判断していた6つの検査

サービスを見る お問い合わせ →

試行実行は本当の状態を伝えていますか？

納品を担当するエンジニアに、プロジェクトについてご相談ください。着手前に、業務範囲、価格の算定方法、引き継ぎ内容を書面で合意します。

担当した役割：インフラ自動化エンジニア。 関連する分野： DevOps, インフラ, 自動化・CI/CD, 信頼性・バックアップ, Linux・サーバー および テスト・品質保証. こちらのサービスも得意としています コードによるインフラ管理, DevOps・CI/CD自動化 および サイト信頼性・監視.

お問い合わせ サービスを見る

より多くの実績の **一つです** — そのすべてをこのサイトで公開しています。

どの項目も、状況、課題、実施内容、変化という同じ構成で記載しています。

すべての実績を見る

必要な改善を定める

デプロイの流れ、運用上のリスク、緊急対応の担当者をお知らせください。検査、復旧手段、明確な責任の所在を伴う変更の範囲を定められます。

料金を見る お問い合わせ →

試行実行は本当の状態を伝えていますか？

「Ansibleチェックモードを実態に即した検証に」の判断の背景についてお尋ねください。仕事内容を説明し、お客様のプロジェクトを検討できる担当者が対応します。

サービスを見る

welcome@engineer.company +45 50 10 61 84 デンマーク、コペンハーゲン

このページを持ち歩く

連絡先カード

心を込めて丁寧に制作： D.

CVR 45969703 · Tagensvej 105C, 3. th, 2200 København N

著作権 © 2025 – 現在 · Engineer ApS · すべての権利を留保します。

印刷元： https://platform.engineer.company/ja/portfolio/made-ansible-check-mode-tell-the-truth/